



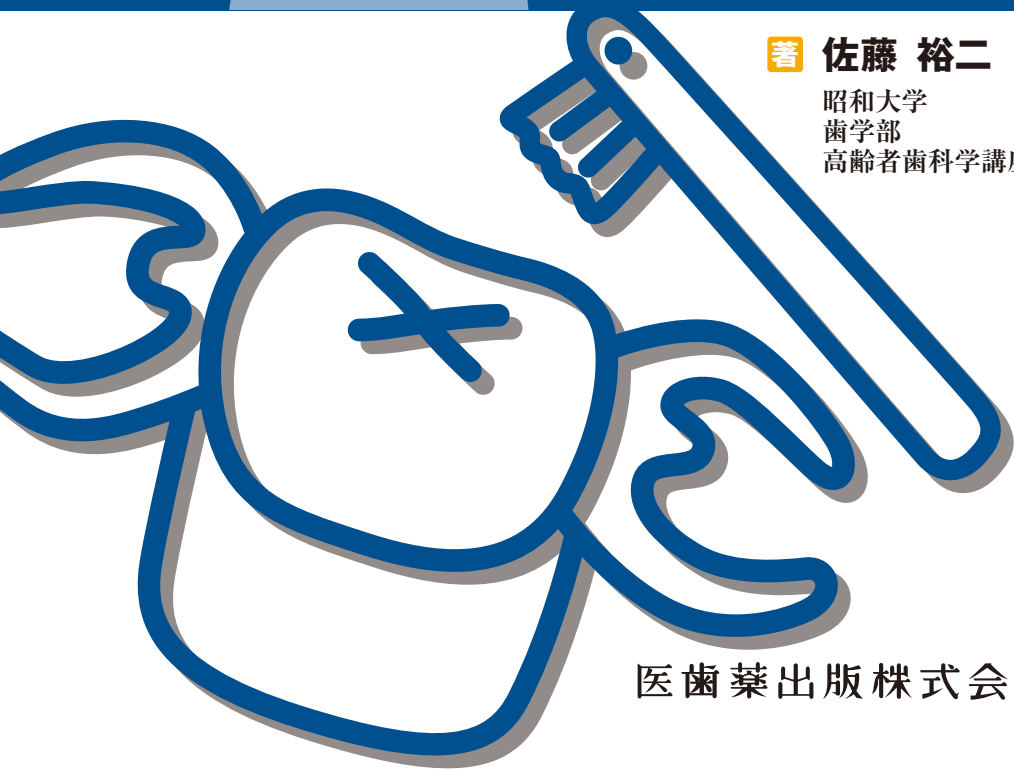
一 ■ 刀 ■ 両 ■ 断 ■ !

# 高齢者補綴治療の お悩み解決

Q&Aで学ぶ理論と70のコツ

著 佐藤 裕二

昭和大学  
歯学部  
高齢者歯科学講座



医歯薬出版株式会社

正 答

d.

解説

✕ a. 「印象後の歯の挺出」はまず生じません。

✕ b. 「印象後の下顎位の変化」も少ないでしょう

✕ c. 「パラフィンワックスの使用」も違います。

「パラフィンワックスによる咬合採得は誤差が大きい」と考えられてしまっていますが、使い方が間違っています。シリコンバイトはより誤差が大きくなることがあります(→Q32参照)。

▶ ○ d. 「咬合採得のミス」が正答です。

|2 と |4 の部分がきっちりと咬合採得されていません。補綴部分をしっかりとかませることが重要です。

術式の例を示します(下図)。



クリアランスがある部分には、パラフィンワックスを厚くします(ア)。

その後、アルーワックスでしっかりとかませます(イ)。軟組織に当たっているワックスは削ります。

これで咬合器装着したのがウです。

この状態で、低い咬合位で作製されたコアを入れてみると、エのようになります(テーパーが大きすぎるのも問題ですが……)。

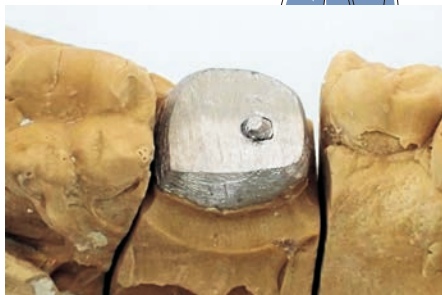
※最後方部の複数のクラウンやブリッジのときの咬合採得も同様です。



✕ e. 「咬合床の不使用」は確かに考えられます。この症例では使用することも一考です。ただし、不安定な咬合床はかえって精度を悪くします。

根管の方向が異なる場合には、分割コアを製作することがあります。

**この分割コアの  
問題点は何ですか？**



- a. マージン部の形態
- b. ラインアングルの形態
- c. テーパー
- d. ポスト自体の形態
- e. ポストヘッド部の形態



正答 a, b, c, e.

解説

- ▶ ○ a. 「マージン部の形態」がナイフエッジです (アの $\alpha$ ).

さらに、オーバーです。また軸面も丸みを帯びています。

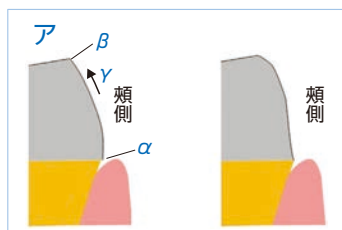
- ▶ ○ b. 「ラインアングルの形態」がシャープです (アの $\beta$ ).

- ▶ ○ c. 「テーパー」が大きいです (アの $\gamma$ ). 頬側が2面形成になっていません。

- ✕ d. 「ポスト自体の形態」は回転防止もあり、よいでしょう (イ).

- ▶ ○ e. 「ポストヘッド部の形態」は短いです。

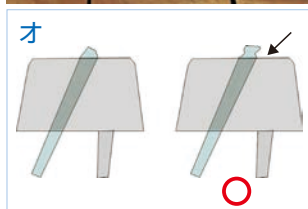
引き抜くために持つところがありません。またポストを入れるときの回転状態の目安もありません。向きが違くと、きっちりと挿入できません (ウ).



きちんと入った後は、試適後に外れなくなかったので、超音波を当てて浮かせました (エ).

本来は、オの右のようにすべきです。引き抜くときの引っかかりになります(合着するときの挿入の目安にもなります)。

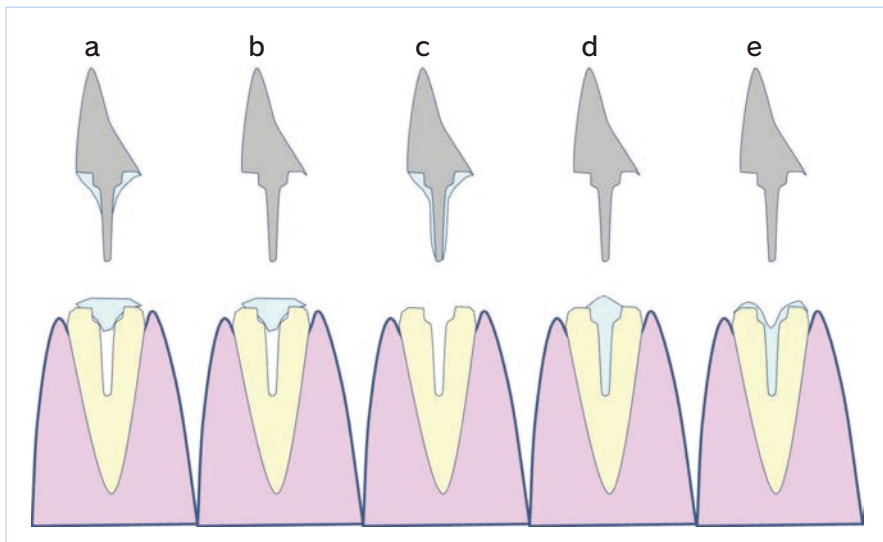
本症例では、仕方がないので合着前にマークを付けました (カ).



# Q 23

## コア合着時のセメント塗布

コア合着の際の  
適切なセメントの塗布は  
どれですか？



### COLUMN

#### コア合着の失敗

恥ずかしい話ですが、卒直後に、下顎小白歯の歯冠部歯質のない  
メタルコアの合着時に頬舌側を逆に合着したことがあります。

幸い硬化前に撤去できたので、難を逃れましたが、根管内のセメ  
ントの除去が大変でした。メタルコアの頬側にマークを付けておけ  
ばよかったと後悔しました。



## ワイヤークラスプの調整法

ワイヤークラスプが緩いときの対応です。

まず、指で少し浮かせてみます(ア)。ほとんど抵抗なく浮き上がるようなら、維持力不足です。

どのくらい浮き上がるかを確認します。アでは、1mmぐらい浮き上がっています。

その後、完全に外します。このときの維持力が【小さい場合】と【十分な場合】で対応が違います。

クラスプを戻して歯面との適合を視診します(イ)。フロスを使用すると、どこから離れているかが確認できます(ウ)。

## 【維持力が小さい場合】

クラスプが歯面から離れるところを、三嘴のプライヤーで内側に屈曲します。少しだけ屈曲して、再度、口腔内に戻して維持力やガタつきの減少を確認します。ガタつきがなくなるまで、繰り返します。

ガタつきがなくなった後、維持力が大きすぎたり、小さすぎる際は、鉤尖を内外に屈曲するではありません。

内側に曲げると、鉤尖だけが当たって、鉤腕が歯面から離れます。外側に曲げると、再びガタつきを生じます。

歯面に沿って、上下に屈曲します(エ)。かなり高度な技です。

## 【維持力が適切な場合】

鉤尖を内側に屈曲すると、維持力が強くなりすぎます。鉤尖を咬合面側に屈曲します(オ)。

これでガタつきはなくなりますが、維持力が強すぎたり弱すぎたりする場合は、先に述べたように、「歯面に沿って、上下に屈曲します」。

最終的な調整後をカに示します。

